

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」 平成26年度第1回推進会議の概要について

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」の平成26年度第1回推進会議を、平成26年6月30日(月)に開催しました。

第1回推進会議には、7名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の山田 康彦氏にご出席いただきました。

なお、第1回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

安藤 大作 (三重県PTA連合会 顧問)
石川 正浩 (サポーターいっちゅう 事務局次長兼広報部長)
※石川委員はご欠席
田尾 友児 (三重県立紀南高等学校 学校運営協議会 委員)
竹内 勇夫 (伊勢市立小俣中学校 校長)
西岡 慶子 (株式会社光機械製作所 代表取締役社長)
藤田 曜久 (三重県立昂学園高等学校 校長)
山田 忍 (スクールカウンセラー)
※山田委員はご欠席
ファシリテーター
山田 康彦 (国立大学法人三重大学 教育学部 教授)

<推進会議の進行概要>

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 15:00

- ・副教育長あいさつ
- ・自己紹介
- ・事務局による資料の概要説明
「協創プロジェクト推進会議の進め方」
「平成25年度の各実践取組の評価」
「平成26年度の取組概要」

プロジェクト推進についての意見交換

- ・本年度の展開等について意見交換を実施

次回(第2回)の開催予定

閉会 17:00

(信田副教育長あいさつ、県事業の説明)

冒頭、信田副教育長から委員の皆さんに本日の会議の開催趣旨について説明しました。

また、各委員の自己紹介をしていただきました。



その後、事務局より資料に基づき、「新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議の進め方」、「平成25年度における各実践取組の評価」及び「平成26年度の取組概要」について説明しました。

※プロジェクトで挑戦する4つの実践取組

- ①「県民総参加による学力の向上」
- ②「地域に開かれた学校づくり」

- ③「教職員の授業力向上」
- ④「安心して学べる環境づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、山田教授の司会によりプロジェクトの推進に向けた意見交換を行いました。

各委員からは、日頃の活動を通じて感じる課題や子どもの学力向上に向けた本年度の展開等について、意見や提案をいただきました。

※委員からの主な意見

○習熟度別授業を実施するのであれば、単に学年を分けるのではなく、個々の児童生徒がわからなくなった授業内容や学年のところまで戻って指導していくべきであり、個別指導をするには人手が足りないのであれば、地域の人材を活用すればよいのではないか。

○不登校や引きこもりの子ども達は、理想と現実社会とのギャップに苦悩しているので、その隙間を埋めていく「道徳教育」を、家庭や学校で実践していくべきであると考える。



○外国人とのコミュニケーションにおいて必要なのは、テクニックではなく愛嬌やテンションなどの人間力なので、子ども達のコミュニケーション能力を養うためには、教職員の人間力を高める研修をする必要がある。

○いじめ問題については、異年齢交流活動やアンケート調査などの間接的な取組ではなく、車の安全運転研修において交通事故の映像をみせるような、ダイレクトにいじめに関わる教育を行うべきである。

○成果レポートに記載してある平成25年度の取組概要と成果・課題からは、それぞれの取組にどれだけの成果があり、何が問題なのかが分かりにくい。また、このプロジェクト推進会議における意見が、どのように新規事業等に反映されているかについて、わかりやすく示してほしい。

○成果レポートにおける評価は、例えば司書派遣する事業では事業実施前後で読書量に変化があったのか、また、学力向上にかかる実践推進校へ各種支援をしているのであれば、実践推進校100校の学力向上したのかどうか、など、具体的かつ定量的に記載してもらいたい。



○教職員がゆったりと教育活動し、子どもが意欲をもって仲間とともに取り組み、子どもはしっかりした大人に育っていくと思う。そのために、教員の確保や、地域人材を活用しやすい仕組みを作っていたらありがたい。

○教職員研修については、実践的な研修に改善が図られており、教職員が受けやすいようにしてもらっていると評価したい。

○三重県と全国を比べて、全国学力・学習状況調査の点数の差はあまりない。基礎的な部分と応用的な部分の差が大きい部分にもっと注目すべきで、それを学校毎に授業に生かしていくなどの取組をしていく必要がある。

○土曜授業について、なぜ実施するのかという意図が、先生や子ども達にきちんと伝わっていない。また、地域人材を活用するにあたっては、地域との連携がうまくいっている学校とそうでない学校があり、状況が異なっている。

○協創プロジェクトの三重らしさは何なのか。三重の子どもたちは何ができて、何ができないのかをきちんと踏まえたうえで取り組んでいく必要があるのではないかな。

など

次回（第2回）の開催予定

平成26年度は3回の開催予定。

次回（第2回）推進会議は、本年度の進捗状況の確認及び翌年度にむけた取組方向について意見交換を行うため、9月中下旬に公開で行う予定です。